

SS 課題研究 r1 事前課題「文献の収集」について

内容：自分の課題研究のテーマになりそうな文献もしくは新聞切り抜き(ネットコラムでも可)の収集
(5分程度で読めるペーパーやレビューが望ましい。論文や冊子ならば、5分程度に抜粋。)印刷や切り抜きして、ファイルできるように穴を開ける。できなければスマホやタブレットで閲覧も可。

日時：9月9日(金)4限のSS課題研究 r1 の授業で各自持参する(複数の場合は1つに絞っておく)

9月9日(金)4限の課題研究では事前課題で持参した文章からキーワードマッピングを行い、内容を図解して文章化します。以下に、「子どもの貧困」についての記事を選んだ場合の例を載せます。以下の流れで、キーワードマッピングを行うことを考慮して、文献を選定してください。

キーワードマッピングの例「子どもの貧困」

活動① (a) キーワードを抜き出す + (b) キーワードをグルーピングする メソッド p40

キーワードを抜き出すポイントは主に次のとおり。

- ① 内容を説明するのに必要な語句 ② 意味がわからない語句 ③ 重要

実際にキーワードを抜き出す。以下の文章は、宮崎県における子どもの貧困に関する新聞記事(抜粋)。

【第10部・展望】(1) 学び

■授業を通し深刻さ理解

「(記事中の)貧困の男性を苦しめている背景は何だろう。」「どうしたら貧困から抜け出せるだろう。」「M市のK中(M校長, 271人)の3年生の授業。S教諭(32)は、本紙連載「だれも知らない〜みやざき子どもの貧困」の記事を使い、6月から授業をしている。

10月下旬の授業では、非正規の仕事に掛け持ちして子育てする男性を取り上げ、解決策を考えた。「(就職率のいい)県外に出たらいい」「裁判を起こす。」「人材不足の医療・福祉職に就職すればいい」。答えが簡単に出ない問いに生徒たちは真剣に挑む。

S教諭が担当しているのは、基本的人権や政治・経済について学ぶ「公民」。経済のグローバル化や規制緩和による地方経済の衰退、非正規雇用の拡大、全国最下位レベルの本県の所得と賃金など、貧困を生み出す背景を織り交ぜ、その影響が子どもたちの生活に及んでいることを説明してきた。

(省略) 一方で、貧困問題を授業で扱う難しさもある。「ほとんどの学校で、経済的に苦しい子どもが教室に必ずいる。当事者を前に、真正面から貧困を取り上げるのをためらう教員は多い。」と県人権・同和教育研究協議会の事務局、S教諭(53)=A中。「学力や意欲の低下など、貧困の根深さが学校に浸透しておらず、教員の意識の変化も求められる。」と強調する。

S教諭は「子どもの貧困は個人の責任より、現代社会の問題。その認識が学校でもっと広がってほしい」と願っている。

宮崎日日新聞 MIYANICHI PRESS 2014年11月25日 より個人名などをイニシャルにし引用
http://www.the-miyanichi.co.jp/tokushu/category_144/

例 上記の新聞記事のキーワードの例

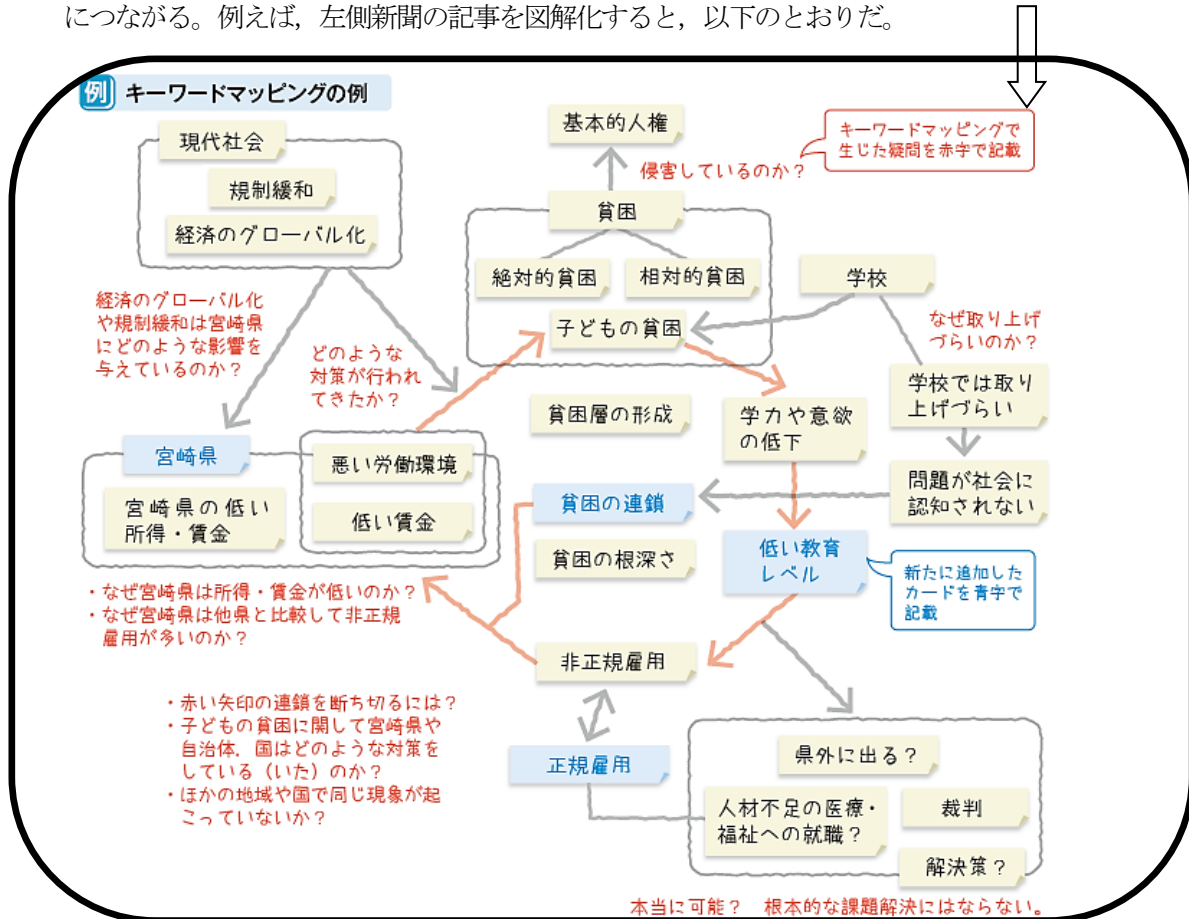
貧困, 非正規の仕事(非正規雇用), 裁判, 人材不足の医療・福祉職, 基本的人権や政治・経済, 経済のグローバル化, 規制緩和による地方経済の衰退, 全国最下位レベルの本県の所得と賃金, 子どもたちの生活, 選挙, 社会や制度, 学力や意欲の低下, 現代社会の問題 など

抜き出したキーワードを並べ替え、以下の観点でグルーピング。

- ①関連のあるキーワードを集め、小さなグループを作る。
②①で作ったグループを中・大グループにする。
③そのグループに見出しを付けて、どのようなグループなのか言語化してみる。

活動② キーワードの図解化 生じた疑問を記載する (課題研究メソッド p.44)

グループ間の関係 (相互・対立・原因と結果など) がわかるように、線をつないだり、丸で囲んだりして図解化する。説明のために新たなキーワードが必要な場合は、キーワードカードを新たに作成しよう。次に課題研究メソッド p.44 の『「リサーチクエスチョンを導こう」』を参考にして問いの立て方を確認しよう。**原因・現状が不明なものや、生じた疑問がある場合は、疑問文の形で記載してみよう。**これらの疑問が研究テーマの決定につながる。例えば、左側新聞の記事を図解化すると、以下のとおりだ。



活動③ キーワードマッピングの内容を文章化する

活動②で図解化したものを文章で説明してみよう。この文章化は得られた情報を自分が理解しているかを確かめるために行うものである。また、友人やほかのグループで読みあってみよう。聞き手は、**キーワードのつながりがきちんと説明されているか、定義がしっかりしているか**チェックすること。

キーワードマッピング「子どもの貧困」の文章

例 子どもの貧困は、貧困の連鎖の結果であり、その要因でもある。また、子どもの学力や意欲の低下を引き起こし、低い教育レベルを生み出す傾向がある。低い教育レベルは雇用形態に影響を与え、多くの場合は賃金が低く、労働条件の比較的悪い非正規雇用につながるため、次世代の子どもの貧困につながる。さらに、この問題を解決するうえで困難な点として、問題の当事者が教室にいて、教育の現場でこの問題を取り扱うことが難しいため、社会一般的な認知度が低いことが挙げられる。